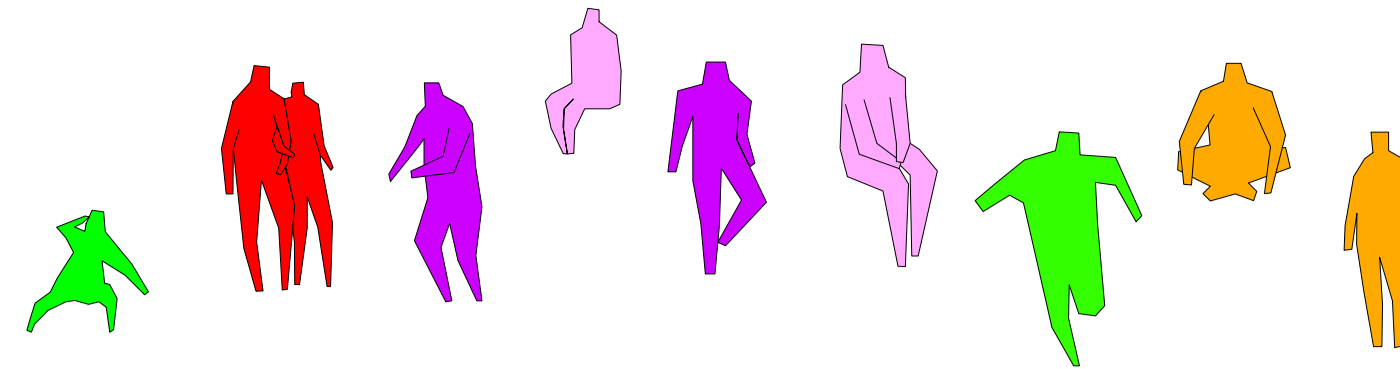


# カルチャー リング シティ

～点在し独立しあう文化的施設を繋ぐことによる新たな水辺活用～



## 設計主旨

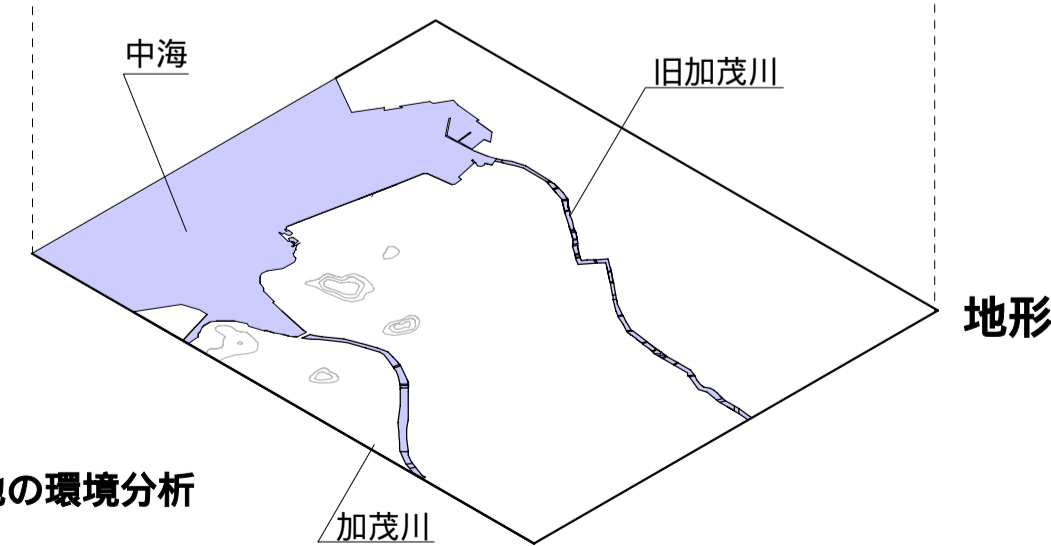
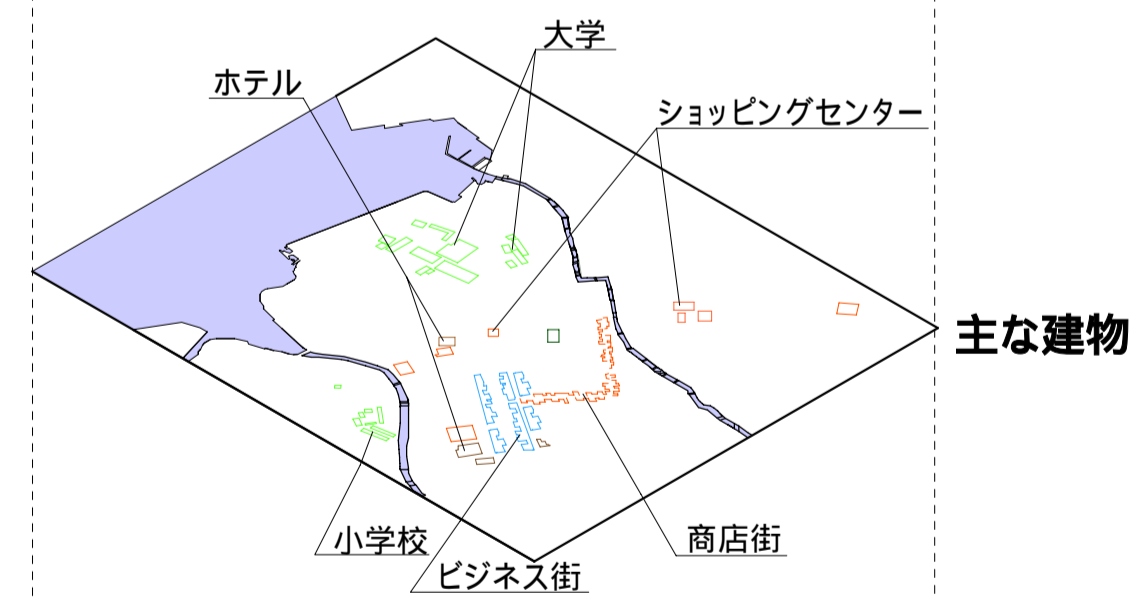
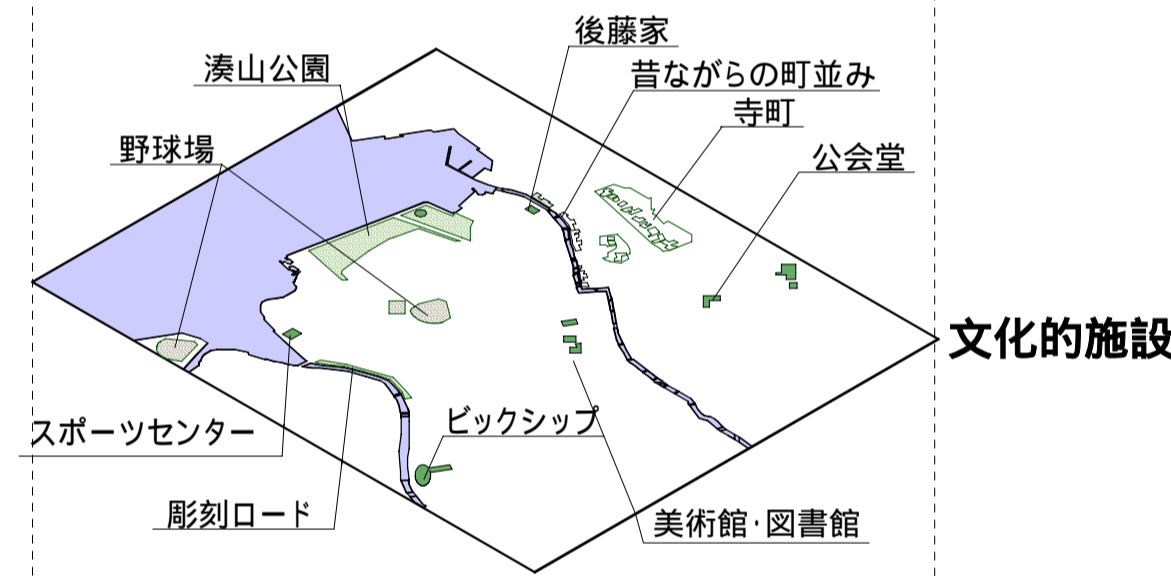
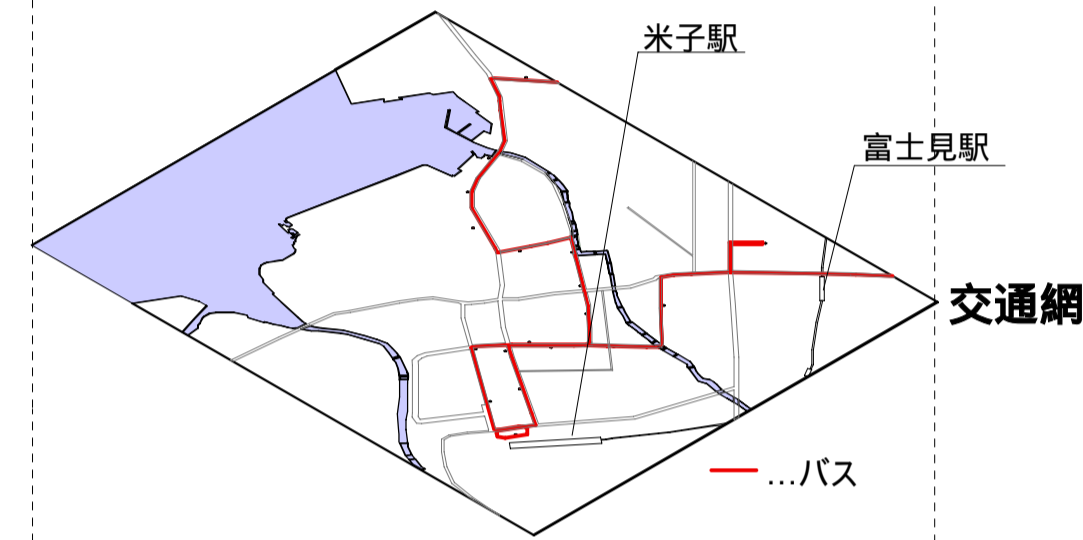
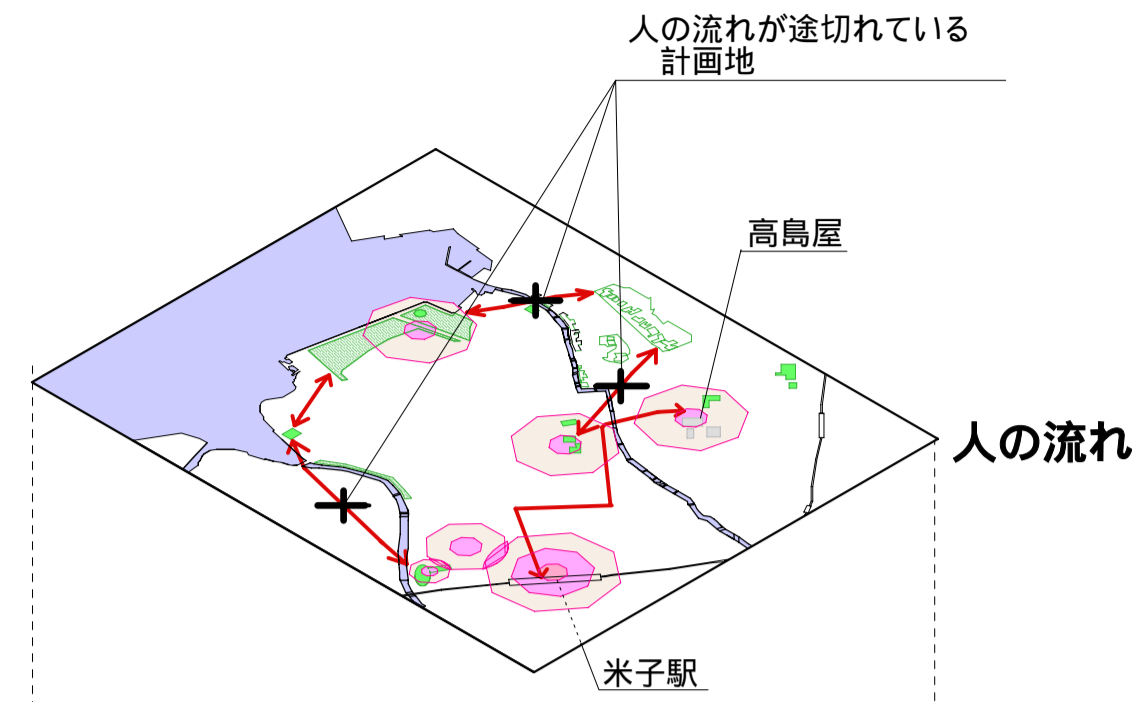
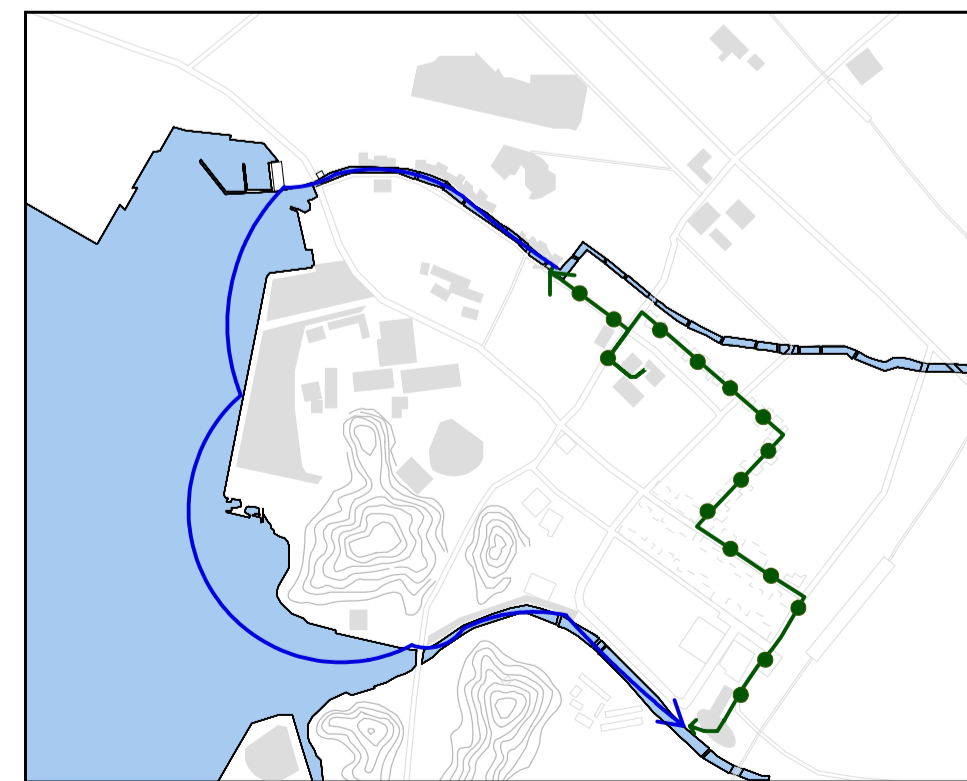
米子市は、旧加茂川、中海、加茂川といった豊かな水辺に囲まれた鳥取市、松江市と並ぶ山陰の三大都市の1つである。かつて米子港は海運業の中心として栄え、旧加茂川は人々の生活の場として深く親しまれる存在であったが、現代において水辺は行政の管理下にあり、人々の生活との関わり合いが希薄なものとなっている。一方、水辺の近くには多くの文化的施設が点在するが、それぞれは独立し、地域のポテンシャルを生かしてないのが現状である。本計画は、米子市街地に点在する文化的施設を繋ぐ施設を水辺に計画し、周辺環境や想定される利用者に対応する滞留空間を設けることで、新たな水辺活用を促進し、結果として米子市街地に水辺を中心とした都市軸を形成させることを目的とする。

## 米子市街地の環境

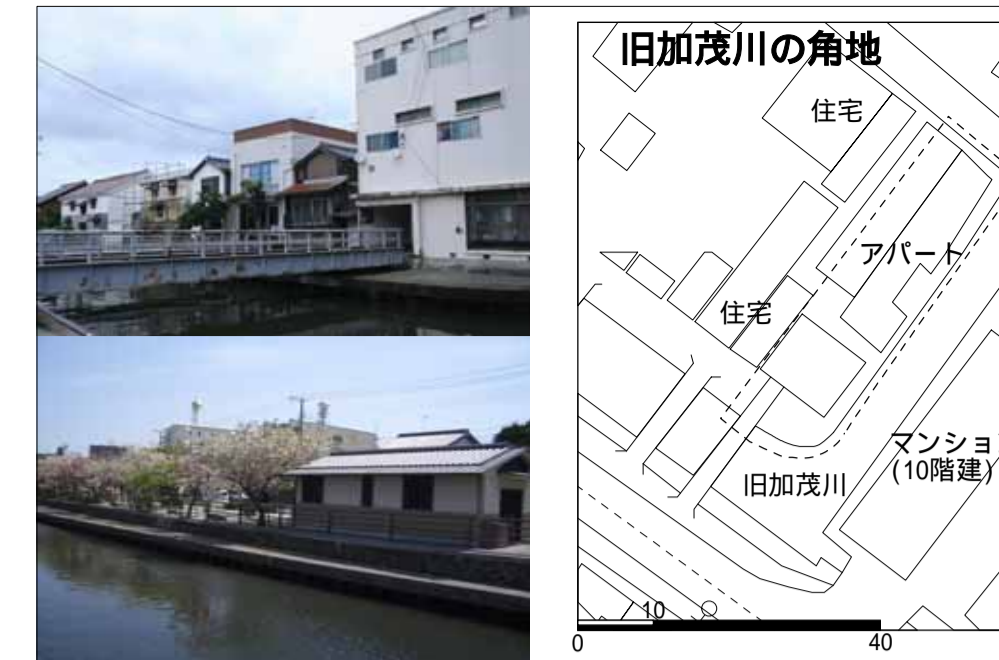
米子市街地の環境分析として、地形、利用者分布、主要建物、文化的施設、交通網の5つの要素を取り上げ、それぞれの関係を把握した。水辺の周辺には美術館、文化ホール、湊山公園、旧加茂川の町並み、寺町という文化的施設が点在しているが、それぞれは独立した集客空間であり、周辺との関係も希薄な傾向にある。また、利用者分布も分散しており、人の流れは米子駅から高島屋の辺りに限られている。以上の分析より、文化的施設間の水辺に3箇所の計画地を抽出した。



そして、抽出した3箇所の水辺に、点在する文化的施設を繋ぐ施設として様々な文化的用途が複合するカルチャー コンプレックスを計画する。これらのカルチャーコンプレックスは水辺に日常的な利用を受け入れる器として機能するものであり、失われた人と水辺の有機的な関係を再生するものになる。加えて、既存バス交通と連携させて新たに水上バス交通を計画することで、水辺を通じたカルチャー リングが形成されると考える。



米子市街地の環境分析



敷地: 尾高町荒浜アパート

周辺環境: 寺町 + 昔ながらの町屋 + 商店街 + 図書館・美術館

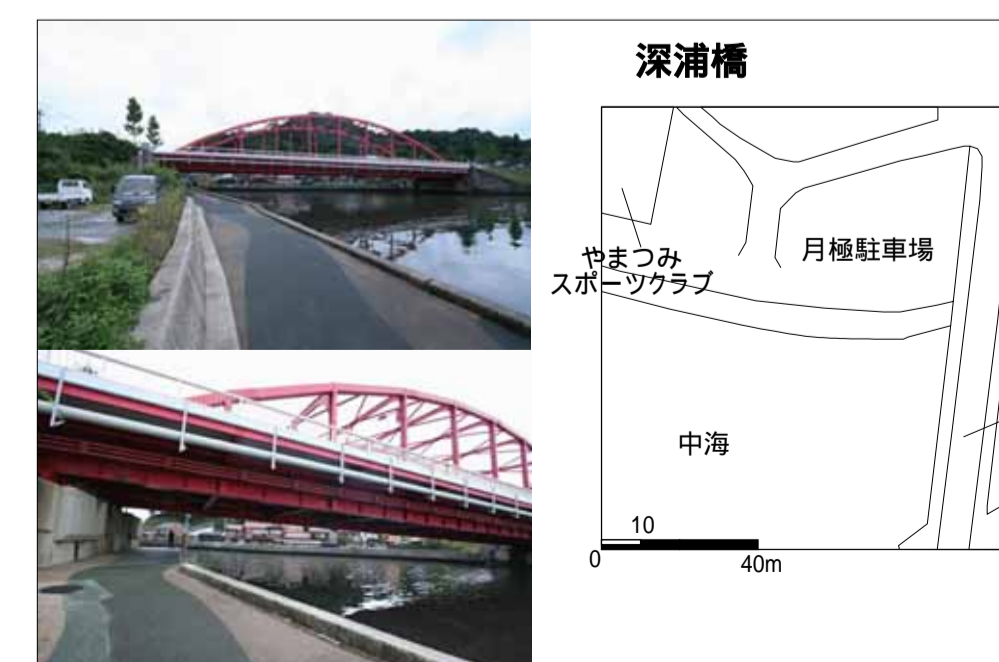
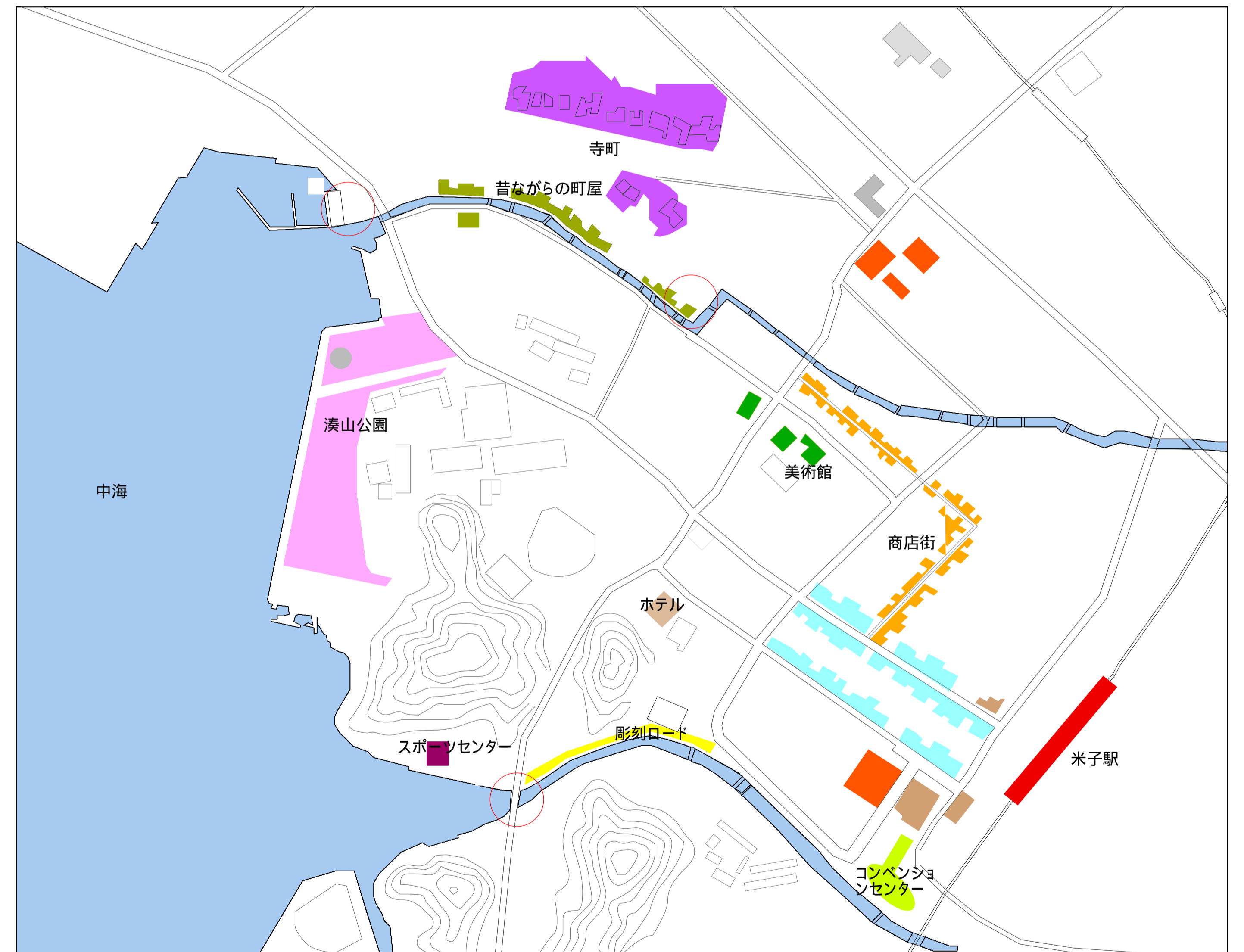
昔ながらの町並み  
桜の木  
大山の絶景  
観光地となっている



敷地: 久米町深浦橋の下周辺

周辺環境: 昔ながらの町屋 + 中海 + 湊山公園 + 寺町

漁港  
大通りの脇で車の通りが多い  
中海は冬に多くの水鳥が飛来  
大山の絶景  
夏から秋にかけては中海でウインドサーフィンや水上スキーなどのスポーツが楽しめる。



敷地: 久米町深浦橋の下周辺

周辺環境: スポーツジム + 彫刻ロード + 湊山公園 + ホテル

川沿いに彫刻ロード散歩をしている人  
周囲は山に囲まれている  
スポーツジムを利用する人があつまる  
大山の絶景  
渡り鳥の渡来

